Education first !!

久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第２8号　　2018 年 6月発行

クリニカルスキル・トレーニングセンター

この4月に、久留米大学の新たな教育支援施設として、クリニカルスキル・トレーニングセンターが開設されました。センター長は、谷脇 考恭 教授です。専任教員として、片山 礼司 助教が着任しました。今回は、片山 礼司 先生に同センターの紹介をしていただきました。またセンターの設備や詳細については、何回かに分けて紹介していただく予定です。現在、WEBページや予約システムの準備もしているそうです。また、６月16日には、同センターにて、「ファミリーキッズセミナー」が行われ、病院スタッフのお子さん（小学生）を対象としたユニークな催しも行われました。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

文を見るだけで分かる人にはわかるクイズ（その１）

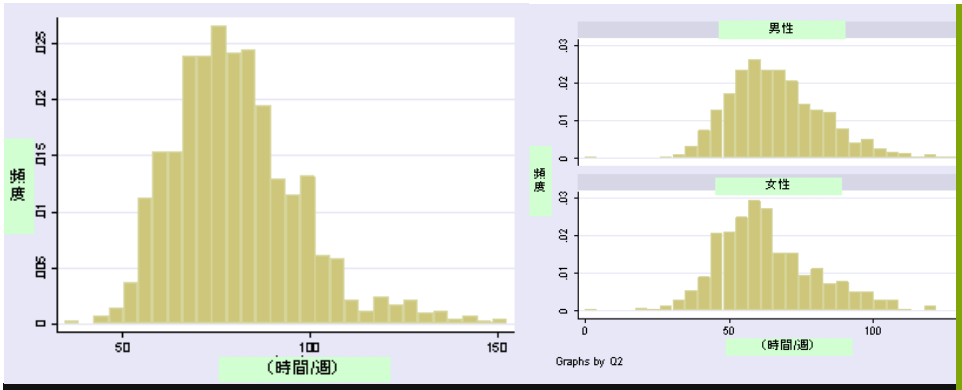
文：上上下下左右左右BA

Q: 何のことでしょうか？

※ ちなみにギネス記録になっています。カナダ銀行（https://www.bankofcanada.ca/banknotes/bank-note-series/commemorative-notes/banknote150/?page_moved=1）の新紙幣画面で「上上下下左右左右BA」を入力すると！？

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同



医師の1週間当たりの勤務時間：厚生労働省の資料より

今号の特集

- 今月の教員の声
- 今月の医学時事
- CSMEロゴ作品

今月の教員の声

医学教育研究センター 山田 圭

医学教育研究センター

https://csme.kurume-u.ac.jp

平成30年4月より整形外科から異動しました山田圭と申します。平成4年に久留米大学医学部を卒業しました。医学部学生時代には、元久留米大学医学部同窓会長の小倉良平先生をはじめ、久留米医科大学出身の教授が多数おられ、1928年に設立された本学の伝統にのっとり髪形や服装、講義の遅刻に対してなど態度面を厳しくしつけられたことを思い出します。この本学出身の教授の先生方に教わった伝統を後の世代に伝えることができればと思っています。

医学教育に関しては整形外科で9年ほど教育主任として学生教育、とくに6年生の臨床実習に携わりました。国家試験を控えて時間的にも精神的にも余裕のない学年にどのように臨床実習を学習意欲が上がるものにするか整形外科講座の取り組みに参加することができました。整形外科は国家試験ではマイナー科目とされ、国家試験を控えた6年生の学習意欲は決して高いとは言えませんでした。

そこで整形外科では約12人で回ってくる学生を２組に分けて、それぞれに担当チューターをつけて学生との交流を密にしたり、術前術後カンファランス中に、学生が座る前列に担当領域のスタッフが一緒に座って、画像やカンファランス内容を解説しました。また2週間の実習終了後、学生にアンケート調査を行い「整形外科の臨床技能を身につけたい」「国家試験レベルの知識を確立したい」という学生のニーズを吸い上げ、ギブス作成実習、リハビリテーション実習、小セミナーを各診療グループスタッフがするようになりました。

その結果、学生から「実習で回ったらはじめてわかりました」とか「手術がおもしろかったです」などポジティブな評価が出始めました。このように教室一丸となって実習プログラムを改訂することで学生の学習意欲が変わるという場面を目の当たりにできたのは貴重な体験であり、非常に教育のモチベーションが上がるものでした。

この度、医学教育研究センターという医学部における教育の重要な部署で働かせていただく機会をいただき大変光栄に思っております。本センターの安達教授、柏木准教授にご指導いただきながら、自分でも学びながら本学の教育に関わっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

「クリニカルスキル・トレーニングセンター始動！」

クリニカルスキル・トレーニングセンター 片山 礼司

2018年4月1日、久留米大学の新たな教育支援施設として「クリニカルスキル・トレーニングセンター」が開設しました。このトレーニングセンターは、医学科や看護学科をはじめとする学生の皆さんが、臨床現場で必要とされる医療技術を実践的なスタイルで学ぶための施設です。

また、病院で働く医師や看護師、医療スタッフにとっては、技能トレーニングや医療安全に係るシミュレーションを通じて実践能力を強化できる環境が準備されています。

施設内には、医療シミュレーターやトレーナーなどの機材が集約されており、一つのエリア内で多岐にわたる医療技術の教育・実習・研修を実施できるという大きなメリットがあります。そして、施設で培われた知識や技術は安全で信頼性の高い医療の基礎となり、患者さんのベネフィットへと繋がっていきます。

5月に機材の準備が整ったトレーニングセンターでは、すでに以下のような利用が始まっています。現在、ホームページやWeb予約システムの構築をはじめ内装の改修など、皆さんが利用しやすい環境の準備を進めており、次号以降では、施設の詳細について紹介していきます。

バーチャルシミュレーターによる技能教育

心肺蘇生トレーナーによる実技演習

Q： クリニカルスキル・トレーニングセンターはどこに設置されたのでしょうか？

A： 総合診療棟8階フロア、旧脳神経外科病棟（G8）の跡地に開設しています

Q： 施設を使用したい場合や見学したい場合にはどこへ連絡すれば良いでしょうか？

A： まずはトレーニングセンターのメールアドレス（cstc@kurume-u.ac.jp）か内線6597へご連絡ください。

医学時事

「医師も働き方改革 学会が特別委 医療の質確保が課題」

医療界が働き方改革に向き合い始めた。日本救急医学会は23日、「医師の働き方改革に関する特別委員会」を設置し、長時間労働の是正について議論を開始した。今年度中に方向性を示し、来年度末までに報告書をまとめる予定という。

医師法は、正当な理由がなければ医師は診療を拒んではならないとする応召義務を規定する。厚生労働省によると、医師の時間外労働の理由のトップは緊急対応。勤務医全体の41%は労働時間が週60時間以上で、割合は職種別で最も高い。診療科別にみると産婦人科(53%)や救急科(48%)で長時間勤務が多い。

だが専門性が高い医師の場合、労働時間の短縮は容易ではない。この日の委員会では「労働としての診療と、自己研鑽の時間の区分は難しい」「画一的な残業時間の上限は現実的ではない」などの意見が相次いだ。研修医が過労自殺した新潟市民病院の田中敏春医師は「超過勤務が多いと『働くな』と言われるようになり現場が回らなくなった。しわ寄せは患者にきている」と話す。患者代表として参加する「知ろう小児医療守ろう子ども達の会」の阿真京子代表は「安全性は譲れないが、患者側も多少の不便は受け入れる必要がある」とした。

委員長の松本尚・日本医科大千葉北総病院教授は「医療の質を落とさないよう働き方改革を議論しなければならない。単に国がまとめる働き方改革を医療に落とし込むのではなく、現場の意見を踏まえ、救急医としての適正な働き方を示していきたい」と話す。

厚労省の検討会は、医師の時間外労働の上限について議論している。今年度末には、具体案をまとめる予定だ。約17万人の会員がいる日本医師会も今月21日、「医師の働き方検討会議」を設け、議論を始めた。4月に日医の検討委が、医師の労務管理や地域医療の維持などについての考え方を盛り込んでまとめた、働き方改革の提言などを受け、意見を出し合ったという。6月までに3回程度開いて働き方改革への意見を集約し、厚労省の検討会へ示す見込みという。

2018年4月23日　朝日新聞デジタル

朝日新聞DIGITAL

https://www.asahi.com/articles/ASL4R53HHL4RULBJ00K.html

久留米大学病院 元気プロジェクト委員会

http://genki.kurume-univ.jp/

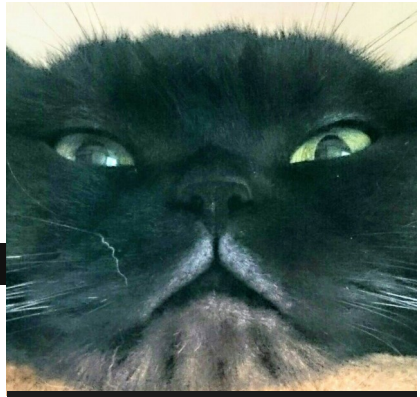
厚生労働省「医師需給に係る医師の勤務状況調査（病院分）中間集計結果 」

http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/02/s0208-12b.html

＜追記＞

「今日できることを明日に延ばすな」(Never put off till tomorrow what you can do today)をまじめに守ると、「仕事中毒」(workaholic)になってしまう。「明日できることを今日するな」と、途中でブレーキをかけるのも大切だ。勉強や仕事を中途半端に終えて寝ると、翌日の取り掛かりが早い。

文責：安達 洋祐



今月のニャンコ

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第２８号です。自慢ニャンコ（ニャンコ以外も可能）の投稿をお待ちしています。

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター　編集担当：柏木　孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
https://csme.kurume-u.ac.jp　E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp